

日 付：2024 年 10 月 31 日

研修名：第 72 回 JR 広島病院オープンカンファレンス

タイトル：皮膚科救急～JR 広島病院皮膚科の医療連携～

氏 名：森岡 理恵子

所 属：JR 広島病院 皮膚科

座 長：田妻 進 病院長

JR 広島病院皮膚科の医療連携と題して、皮膚科の救急疾患とアトピー性皮膚炎の最新の全身療法について説明した。

重症薬疹では全身症状や粘膜に症状がある場合に注意が必要で、眼に症状があるときは後遺症を残す恐れがあるためすぐに眼科を受診させる必要がある。壊死性筋膜炎は DIC や多臓器不全で死に至る危険性があるため、疑ったら試験切開を行い、早期に診断、治療を行うことが大切である。汎発疹や合併症がある帯状疱疹は症状が重篤である場合があり、入院して抗ウイルス剤投与を行う。高齢者や小児の裂創では、縫合せず、不織布テープを貼付する方が経過の良いことがある。動物咬傷の際は、洗浄、デブリードマン、破傷風ワクチン、予防的抗生剤を投与するとともに、神経や腱の損傷がないか観察する必要がある。マダニ刺咬症では、虫体を無理に除去すると一部が皮膚に残存し異物肉芽腫になることがあるため、皮膚を含めて除去するほうが良いと思われる。ライム病や重症熱性血小板減少症候群にも注意が必要である。糖尿病性壊疽では、感染制御、血糖コントロールとともに血流障害を評価し、血流障害がある場合は血行再建ができるか血管外科との連携が大切である。

アトピー性皮膚炎の最新の全身療法として、2018 年以降生物学的製剤や JAK 阻害薬が登場した。従来、皮疹が悪化したときの全身療法としてはステロイドやシクロスポリンの内服があったが、全身的な副作用があることから長期的な使用は難しかった。生物学的製剤や JAK 阻害薬は有効性が高く、副作用を定期的にモニターする必要はあるが、長期的に使用できる可能性がある。